

山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部は、1881年に創建された東京物理学講習所以来の建学の精神「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」を深く理解し、薬学のスペシャリストたる本校卒業生の薬学人としての活躍により健康を通じて国運発展の基礎とする事を目標とする。

そのため、地方公立大学薬学部として、地域創生の観点から健康医療に関わる課題等に積極的に取り組み、教育・研究を通じて様々な地域社会や国際社会の発展に貢献しうる人材を輩出する。

以上の教育・研究上の使命に鑑み、本学の基本理念である「世界的視野で物事を思考できる人間性豊かな人材の育成」「波及効果の期待できる独創的・先進的研究の推進」「教育・研究と地域貢献が一体化した生涯教育の充実」の元、「薬学をとおして人々の健康を守る」という薬学部独自の志を掲げ、以下を修得した学生に対して学位を授与する。

1) 薬学人としての教養と倫理観、コミュニティー愛、キーパーソンとして活躍するためのリーダーシップ

- ・「薬学をとおして人々の健康を守る」という薬学人として活躍できる教養と人間性、倫理観を備えている。
- ・自らの関係する地域社会をはじめ様々なコミュニティー（職業、学問領域など）を愛する気持ちを有している。
- ・患者本位の視点で人の命と健康な生活を守るキーパーソンとして活躍するためのリーダーシップ（意欲、使命感と責任感）を備えている。

（薬学教育モデル・コア・カリキュラム10の資質の対応番号：1、2、3、4、9、10）

2) 薬学人としての基本的な知識・技能と、それらに裏付けられた応用力

- ・薬学人の知識の基盤となる基礎科目（物理・化学・生物）及び情報学、統計学の、基礎知識を有している。
- ・基礎科目等の学びで得た基礎知識を基盤として、健康・福祉・医療・創薬など様々な分野で、薬学人としてその知識・技能・応用力を発揮できる。
- ・患者や生活者の視点に立った薬物治療方針を立てることができる。

（薬学教育モデル・コア・カリキュラム10の資質の対応番号：4、5、6、7）

3) 薬学人としての問題発見・解決能力と研究遂行意欲

- ・薬学の領域をはじめ様々な自然科学的または社会的現象について、解決すべき問題を発見・認識できる。
- ・発見・認識した問題に対し、薬学的知識・技能を基盤に、その解決に向けた研究立案およびその遂行の意欲を有している。

（薬学教育モデル・コア・カリキュラム10の資質の対応番号：3、4、5、7）

4) 薬学人としてのコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力

- ・患者や生活者、他医療職種はじめ他職種に対し、自らのみならず相手の立場を理解の上、対象者に関する有益な情報を収集・発信できる。
- ・薬学領域のみならず地域社会・国際社会で問題解決に向け、よりよい方法を探索し、その情報を発信できる。

(薬学教育モデル・コア・カリキュラム10の資質の対応番号：5、6、7、8、9)

※薬剤師として求められる基本的な資質・能力

薬剤師は、豊かな人間性と医療人としての高い倫理観を備え、薬の専門家として医療安全を認識し、責任をもって患者、生活者の命と健康な生活を守り、医療と薬学の発展に寄与して社会に貢献できるよう、以下の資質・能力について、生涯にわたって研鑽していくことが求められる。

1. プロフェッショナリズム

豊かな人間性と生命の尊厳に関する深い認識をもち、薬剤師としての人の健康の維持・増進に貢献する使命感と責任感、患者・生活者の権利を尊重して利益を守る倫理観を持ち、医薬品等による健康被害（薬害、医療事故、重篤な副作用等）を発生させることがないよう最善の努力を重ね、利他的な態度で生活と命を最優先する医療・福祉・公衆衛生を実現する。

2. 総合的に患者・生活者を見る姿勢

患者・生活者の身体的、心理的、社会的背景などを把握し、全人的、総合的に捉えて、質の高い医療・福祉・公衆衛生を実現する。

3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療・福祉・公衆衛生を担う薬剤師として、自己及び他者と共に研鑽し教えあいながら、自ら到達すべき目標を定め、生涯にわたって学び続ける。

4. 科学的探究

薬学的視点から、医療・福祉・公衆衛生における課題を的確に見出し、その解決に向けた科学的思考を身に付けながら、学術・研究活動を適切に計画・実践し薬学の発展に貢献する。

5. 専門知識に基づいた問題解決能力

医薬品や他の化学物質の生命や環境への関わりを専門的な観点で把握し、適切な科学的判断ができるよう、薬学的知識と技能を修得し、これらを多様かつ高度な医療・福祉・公衆衛生に向けて活用する。

6. 情報・科学技術を活かす能力

社会における高度先端技術に関心を持ち、薬剤師としての専門性を活かし、情報・科学技術に関する倫理・法律・制度・規範を遵守して疫学、人工知能やビッグデータ等に係る技術を積極的に利活用する。

7. 薬物治療の実践的能力

薬物治療を主体的に計画・実施・評価し、的確な医薬品の供給、状況に応じた調剤、服薬指導、患者中心の処方提案等の薬学的管理を実践する。

8. コミュニケーション能力

患者・生活者、医療者と共感的で良好なコミュニケーションをとり、的確で円滑な情報の共有、交換を通してその意思決定を支援する。

9. 多職種連携能力

多職種連携を構成する全ての人々の役割を理解し、お互いに対等な関係性を築きながら、患者・生活者中心の質の高い医療・福祉・公衆衛生を実践する。

10. 社会における医療の役割の理解

地域社会から国際社会にわたる広い視野に立ち、未病・予防、治療、予後管理・看取りまで質の高い医療・福祉・公衆衛生を担う。